

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を掲げ、日々業務の中で実践できるように努力している。	○  玄関先に掲げ、誰でも見えるように掲示し、職員も常に目に止めるようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議及びユニットミーティングの際に目標を共有し、日々取り組んでいます。	○  毎日の朝礼時に基本理念の復唱を実施するようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域を巻き込んだイベントの開催や不定期に発行している広報誌により、家族や地域への浸透を実践している。	○  回数や内容をもっともっと見直し、わかりやすく理念が浸透していけるように、努力していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の小学校、中学校、児童館等と交流があり、各イベントをお互いに行き来している。又、参加の際には利用者、職員そろって積極的にふれあいやコミュニケーションをとっている。	○  キャラバンメイトには興味がある。しかし、日々の業務に追われ、なかなか時間の取れないのが現状である。今後、業務改善等により負担が軽減されたときには、少しでも貢献できればと思っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでいる。指摘された項目に関しては、出来ることを話し合いながら、一つ一つ改善にむけて努力している。	○ 第三者の意見も取り入れながら、より良い改善を目指している。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、その都度話し合われた内容や提案等を吟味し、サービスの向上に向けて参考にしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には介護保険担当の市役所員にも案内を出し、出席された場合には積極的に意見をもらい、その内容について実現できるように努力している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者やリーダーはある程度理解しているが、全職員までとはいかない。	○ 今後、職員全体で知識を共有し、必要性活用性を支援できる体制作りを実践していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修や施設内研修でも多々、表題にし、知識や防止について学び、実践している。	○ 特にスピーチロックには注意を払い取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面、口頭でもって説明し一応の承諾は得ている。	○  問い合わせやわからない時は、その都度、懇切丁寧を旨とし、説明を行っている。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付があった際には、迅速に対処できるように体制作りを行っている。	○  運営推進委員会などの第三者にも内容や対処の結果などを説明し、意見を求めている。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、請求書等と一緒に日々の様子を書いた手紙を同封している。また、急な通院や体調不良時には逐一、電話等で連絡を取り合っている。	○  広報誌等を活用して、もっと家族へ情報を発信していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月一回の手紙の返信時に意見をもらったり、面会時に家族との談話のなかで内容を取り入れさせてもらっている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、随時意見を吸い上げ、出来る事は実現できるように努力している。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状態変化にあわせ、できる限りの対応ができるように努力している。	○  勤務表により時間や常勤換算などは、厳しい内容にならないように努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	頻繁な異動は避け、十分な期間をおいて、ごく少数の職員の異動はある。	○	常日頃から全利用者と均等にコミュニケーションがとれるように努力し、異動の場合にもダメージ等を最小限に、スムーズに行えるようにしている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修や講習に参加し、知識を深めてもっている。	○	研修報告会や施設内研修で一人ではなく、職員全体が共有できるようにしている。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム等とイベントへの相互交流を毎回おこなっている。	○	相互評価事業を通じて、互いに情報交換、サービスの質の向上に向け努力している。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年数回の忘年会や新年会等の行事を企画し、職員同士が良好なコミュニケーションを取れるように努力している。	○	職員からの行事も積極的に取り入れ、今後に生かしていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	良いところは良い、悪いところは悪いと社会常識に則り指導している。また、個々の個性を生かせるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とは面会のたびに聞き取りや情報交換を行い、情報の共有に努めている。また、見学者にも同様にいき、傾聴に努めるようにしている。	○  聴くだけでなく、なにを求めているのかまでを把握していきたい。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内容に応じて、どんな支援がいいのか、より良い対応をめざしている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の心境の変化や願望については、コミュニケーションを通じ意見を傾聴するように心掛けている。	○  家族も巻き込み、本人、家族、職員と三位一体で取り組んで行けるような体制を目指したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護されている人ではなく、一人の人として相手の気持ちに立ち、互いに成長し会える関係作りを目指しています。	○  今後ますます、利用者・家族と職員とで信頼関係を築ける間柄を目指したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人に対して、家族と共同でケアを行っています。	○	わからないことがあれば、なんでも家族へ相談、助言をもらっています。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々に家庭背景が違うので、一概にすべてを把握するに至ってはいない。	○	それぞれの背景を理解した上で、利用者・家族と信頼関係を築いていけるように努力している。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人・友人等の面会には特に制限を設けず、利用者の意に添った支援をしている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係作りに関して特に口出し等はしていない。(個々の特別な例を除く)		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所等となった場合でも、相談等はいつでも受け付けております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の意見に耳を傾け、望んでいる暮らしを実現できるように家族と一緒に なって取り組んでいます。	○	今まで以上に積極的に家族も巻き込んだケアが出来るように努力して行きたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その家庭の背景に応じて把握している。無理な追及等はしていない。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活パターンは多少違えど、変化やその兆しに対しては、注意深く見守っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員だけの意向ではなく、家族からも意見を吸い上げ作成している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本は3ヶ月毎の更新だが、状態に変化があった場合や、医療機関退院後などは、その都度見直しを行っている。	○	変更・更新があった際には、本人・家族から、署名・捺印を頂いています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当日の出勤職員が記載している。また、申し送りや連絡帳でも情報の共有を図っている。	○	より良い記録への模索をしています。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在多機能性はないので、今後さまざまな事業を取り入れていきたいと思っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小・中学校やボランティア等と協力して利用者のケアを支援している。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者・家族からの相談があれば、それに添える形で支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身近でいえば、運営推進会議に毎回参加して頂き、その都度、意見や助言をもらっている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的往診・受診。緊急時にも対応してもらえる体制を整えている。	○	夜間でも訪問看護ステーションと連携を図っている。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医は身近にいないが、総合的に判断をしてくれる医師とは連携を図り支援している。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の他に、訪問看護ステーションとも連携を図っている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医等と入院後も連絡・調整を図り、利用者にとっての最善の方法を話し合っている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重要事項説明書などで説明はしている。ターミナルケアは現在取り入れていない。	○	今後、看護師の配置や訪問看護ステーションとの密な関係作りが重要となってくると思われる。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約時に重要事項説明書などで説明はしている。ターミナルケアは現在取り入れていない。	○	今後、看護師の配置や訪問看護ステーションとの密な関係作りが重要となってくると思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の移動に関しては、連絡調整を互いに密に行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーには最新の注意を払ってケアにあたっている。また、ケース記録等は個人名記載を避けております。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	基本的には本人の意思決定を尊重しています。	○	時と場合によっては本人ではなく家族に決定権を委ねる場合があります。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動の変化へは柔軟に対応しております。あくまでも生活のペースは本人です。	○	生活のペースは本人だが、共同生活ということもあり、100%本人主体とはいっていない面もあります。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的には本人にすべてまかせてあります。但し、理美容院利用の際には、日程等本人の希望に添えないときもあります。	○	不定期で近隣の美容師さんか訪問散髪してくれています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食事の際は利用者・スタッフが一緒になって食卓を囲んでいます。</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>喫煙や飲酒などは、場所や時間に多少の制限があるものの、希望に添える形で支援している。</p>	○	<p>喫煙・飲酒は居室では認めておりません。また、喫煙は喫煙所で、飲酒は夜間のみ認めています。</p>
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p> <p>個々のケア内容に添って対応している。</p>	○	<p>排泄チェックにより、排泄パターンの把握、自立に向けた取り組みも行っています。</p>
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> <p>定期的な入浴を施行しています。</p>	○	<p>本人の希望する時間には、必ずしも対応は出来ていません。</p>
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p> <p>基本的に生活のペースは本人にまかせております。しかし、夜間安眠を考慮し、日中ある程度活動してもらい時間のメリハリをつけてもらう時もあります。</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> <p>自らの役割が自然と決まっている利用者もいますが、基本的には、本人の自由に過ごしてもらっています。</p>	○	<p>本人の趣味などをもっと活用したケアに主軸をおいていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人が金銭を持つことに制限はしていないが、家族の意向や本人の状態によっては施設で金銭管理をしています。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節行事等を多く取り入れ、なるべく多くの機会について外出できるように取り組んでいる。	○	その日の希望に添っての外出は必ずしも実現させることが出来ない時もある。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節行事等を多く取り入れ、なるべく多くの機会について外出できるように取り組んでいる。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限は設けていない。夜間や早朝などの常識外通話は別。	○	利用者本人が携帯電話をもっている場合もある。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間を除き、訪問（来所）に関しては、特に制限はない。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束行為は行っておりません。職員も内外の研修によりより多くの知識を学んで実践しています。	○	やむを得ない場合には、家族から書面にて承諾書を頂いております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中はすべての出入り口に関して施錠はしていません。夜間は防犯の理由から施錠しています。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在は常に把握しながらケアをしています。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者によっては果物ナイフを所持している方もおります。利用者の状況や家族の意見を取り入れながら状況を見極めていきます。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	内外の研修等により知識の習得に努めて実践しています。	○	さまざまな研修会や事例検討等を踏まえて、職員の介護力のレベルアップを図っていきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急応急処置に関する講習会に順次参加させております。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っています。また、緊急避難場所・集合場所も決まっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時及び状態変化時より、家族へは折に触れて相談を持ちかけ、理解を得ています。	○	もっと家族も巻き込んだケアを行ってきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや日頃の観察にて常に利用者の変化には気を配っています。	○	気づいた点や専門的な部分は、かかりつけ医や訪問看護ステーションに随時相談しています。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬剤情報を添付し、いつでも閲覧できるようにしています。また、臨時・追加薬がある場合には、状態観察を怠ってはおられません。	○	気づいたことは、かかりつけ医や薬局へ随時相談しています。
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックは毎日、本人聞き取りと確認にておこなっています。また、便秘が続いた時は緩下剤をしようしてコントロールしています。	○	栄養士による食事指導も取り入れています。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを励行しています。また、自力では困難な利用者に関しては、介助して行っております。	○	施設内研修でも口腔ケアに関しては議題に取り上げて、重要性を学んでいるとことです。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後ごとの摂取量と1日の水分摂取量の把握と記録に努めております。	○	摂取が出来なかったり、少なかったりした場合には、栄養士指導のもと対応しています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年インフルエンザ接種を励行しています。また、マニュアルを用意し、いつでも閲覧できるようにしています。	○	感染症に関する外部研修や内部報告研修において常に知識の習得に努めています。また、手洗い等の徹底にも努めています。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士管理のもと、衛生管理や方法、新鮮な食材の使用などに心掛けています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に変わった作りをしているわけではなく、ごく普通の玄関である。また、花を生けたりと雰囲気の良い環境づくりも合わせてしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に関しては利用者・家族の意見も多分に取りれている。	○	左記にあわせ、職員・利用者による清掃も毎日コミュニケーションと取りながら行っている。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	環境整備に関しては利用者・家族の意見も多分に取りれている。	○	リビングは自由に過ごせる場所。利用者・家族・職員ともにコミュニケーションの場所でもある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	以前から愛用している家具を置いている利用者 もいる。居室の使用に関して特に制限は設けてい ない。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室には温度計を設置し、温度管理には気を 配っている。	○	今後は湿度計も設置し、湿度管理にも気を配っ ていければと思う。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手摺等の使用やバリアフリー構造により、ある 程度は自立した生活を営んでもらっている。	○	もっとより良い環境を提供できないか？今後の 検討課題である。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室やトイレ等に表札等を貼り、どんな場所な のかを理解して自立してもらっている。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	施設全体を自由に移動・活用するのに特に制限 は設けていない。	○	夏には施設の裏で、畑を耕したりもしている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現状に満足することなく、常にステップアップを目指しております。明確な目標を打ち出し、チーム一丸となって揺るがない情熱を持って積極的に向かっています。介護現場における基本を忘れることなく、利用者への接遇と職員間の報告・連絡・相談を大切に実施しています。